

日によって天気が変わる予報です！ 天気や降水量を考慮して適切な水管理を！

管内の移植作業は、平年よりやや早い進捗となっています。

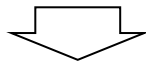
5月19日現在の天気予報では、5月21日は風雨が強まるなど、日によって天気が変わると予想されています。天気予報を確認し、低温や強風時は深めの水管理で稲体を保護しましょう。また、強風など悪条件時の田植えは避けましょう。

<本田初期 ~水管理のポイント~>

1. 本田初期の基本的な水管理

田植え直後は水深4～5cm程度にして、活着を促進させます。また、活着した後は浅水管理で地温・水温を高め、分けつの発生を促進させます。

● 活着期：水深4～5cmの水管理
(稲体を保護して新根の発生を促し、活着を促進)



● 活着後：水深2～3cmの浅水管理
地温・水温を高め、分けつの発生を促進します

☆POINT☆

- ・日中は止水とし、地温や水温を高めます。
- ・入水は夜間か早朝に行います。
- ※低温や強風時は、水深4～5cmの水管理で稲体を保護します。

2. 除草剤使用時の水管理

除草剤散布は3～5cm程度の湛水で行い、散布後の7日間は「**止水管理**」とします。また、好天が続くと雑草の発生が早まる可能性があります。遅れないよう「**適期散布**」に努めましょう。

極端な高温や低温となった場合は、散布を延期しましょう。

また、急な降雨で田面水があふれないよう、水尻の点検補修をお願いします。



散布後 3～4 日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。

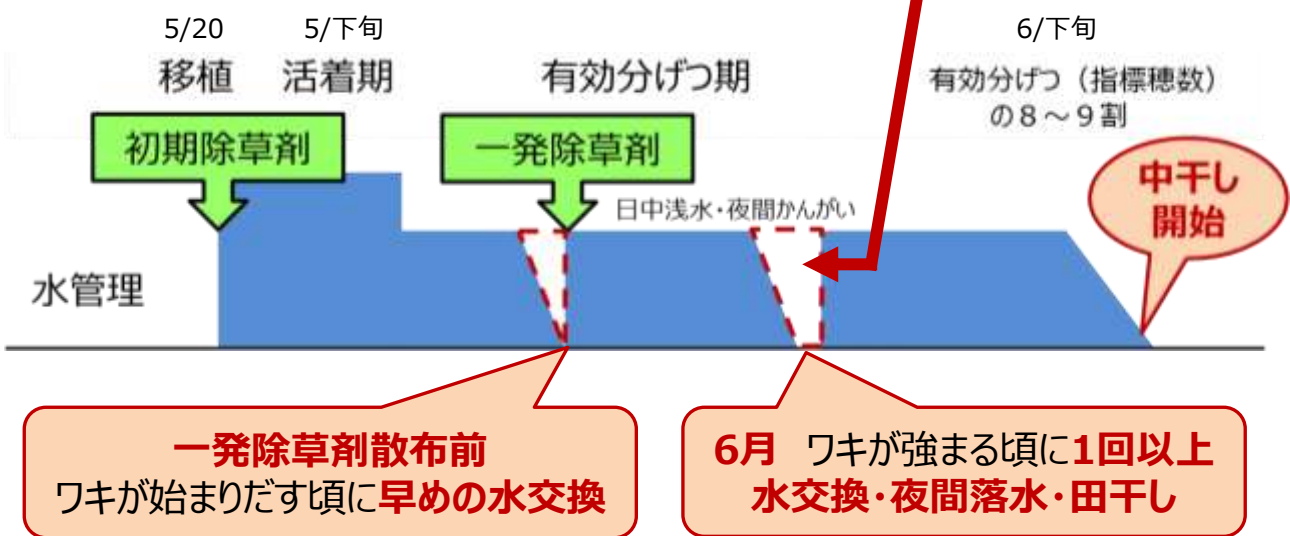
3. 土壤還元(ワキ)対策 (毎年の重点事項!)

例年、6月上中旬頃に稲の葉色が淡く(黄色く)なるほ場がみられます。主な原因は、高温による土壤還元(ワキ)により根傷みが発生し、水分や養分を十分に吸えなくなるためです。下記のポイントを参考に、積極的に水交換・夜間落水・田干しを行い、根傷みを未然に防止しましょう。

①一発除草剤散布前に水交換を行う。

※除草剤を散布すると7日間は止水管理となるため、その間に土壤還元が進んでしまいます。一発除草剤散布前に水交換を行い、入水後に除草剤を散布しましょう。

②6月に入り、ワキの程度に応じて水交換・夜間落水・1~2日程度の田干しを1回以上行う (日数は1回につき3日程度を上限とし、ワキの程度に応じて複数回行う)。



4. 葉いもち発生防止対策と防除

水田内の補植用取り置き苗は、葉いもちの重大な感染源となります。取り置き苗は補植後速やかに処分しましょう。

また、育苗箱施用薬剤による葉いもち防除を行っていない場合は、6月20日頃までに予防粒剤を本田に施用しましょう。